

# 堺利彦と豊津

## 近世社会運動の祖

みやこ町豊津の行橋市との境に位置する八景山公園に、明治・大正・昭和の日本の社会、文化の発展に寄与した郷土の偉人の碑が建つ。堺利彦、葉山

嘉樹、鶴田知也。この地からは更に多くの近世社会運動家が生まれ育ち、わが国の、人々の発展に尽力、寄与した。今回は堺利彦を軸にその足跡をたどり、今を考える。

### 日本社会主義運動の父

マルクス経済学者として知られた大内兵衛(元法政大学総長)は堺をして「日本社会主義運動の父」と称した。その堺は、ここ豊津で明治3年(1870)、元小笠原藩下級士族堺得司の3男として出生。中村家の養子として豊津中学校を卒業後、上京して第一高等中学校に入ったものの長兄・平太郎の死去で豊津・堺家に戻り、今度は都合で一家そろって大阪に移住。小学校英語教員をし、文学青年でもあった。ここで豊津藩校育徳館出身の征



みやこ町八景山公園に立つ堺利彦記念碑

矢野半弥の紹介で毛利藩歴史編集者だった末松謙澄(行橋市出身)に会い、彼の「防長回天史」編集に参加。その2年後の明治32年(1899)からは新聞「万朝報」の記者として言文一致等の社会改善の取り組みに熱を注いだ。その時期起きたのが日露の紛争。同社論調は当初、日露非戦論だったのが同36年(1903)主戦論に転じ、堺はこれに反発して同僚の幸徳秋水とともに退社。同年11月、二人で東京・有楽町に平民社を置いて週刊「平民新聞」を発刊し戦争否認論を展開した。この同紙創刊号に二人は平民社同人の宣言として「自由、平等、博愛は人生世に在るゆえんの三大要素なり。一中略一吾人は人類をして平等の福利を享けしめんがために社会主義を主張す一略」と訴えた。

翌37年(1904)2月に日露戦争勃発。平民新聞は桂太郎内閣の臨時軍



第一期堺利彦農民労働学校開校式に参加した(後列左から3人目)鶴田知也、(4人目の)堺利彦たち(福岡県)みやこ町歴史民俗博物館(所)蔵

事費予算が国会で無条件で承認されたことを批判したことから発売禁止になり、発行兼編集人の堺は起訴され禁錮2か月の入獄に。日本の社会主義運動史上、最初の国による弾圧だった。

堺は以後も、妻美智子の病没、政府の弾圧による平民社解散、週刊平民新聞の廃刊等を経験しながらも明治39年

(1906)2月、日本社会党創立に関わり、大正11年(1922)には日本共産党創立で代表になるなど、戦後の社会、革新運動の基盤を築く役割を担った。この間、社会主義者と警察官

の乱闘の赤旗事件(明治41年)、天皇暗殺謀議があったとして幸徳秋水ら12人を死刑に処するなど多くの社会・無政府主義者を弾圧した大逆事件(同43年)など争乱が相次ぎ、堺はこれらに関与、あるいは関わっていないまでも5回に渡って検挙・入獄を強いられた。

### 農民労働学校を開校

昭和6年(1931)、地元の農民運動、社会の発展を目指して日農福岡県連会長田原春次が農民労働学校計画を鶴田知也(後・芥川賞作家)に相談、鶴田から話を聞いた堺も即座に同意し校長就任を快諾して2月、行橋の精米所2階を会場(後、豊津に移す)に学校がスタートした。学校は同8年1月の堺没後まで5期に亘って開き、農民

をはじめ多くの若者らの成長を手助けした。その講師として堺、田原、鶴田のほか堺の娘・真柄や農村青年の落合久生たち。経済的理由で参加出来なかったものの葉山嘉樹(プロレタリア文学作家)も様々な形で支援した。

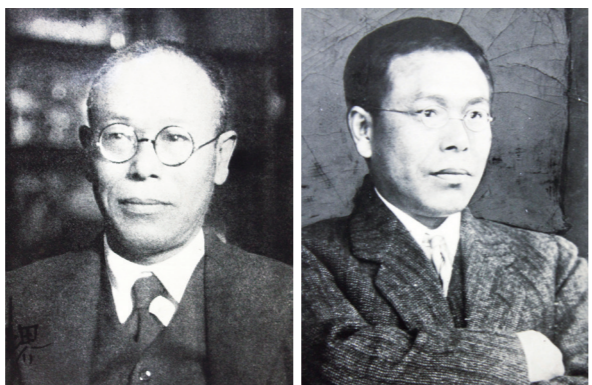
ここに登場する田原、鶴田、葉山らのほか夏目漱石門下のドイツ文学者小宮豊隆も豊津中出身である。堺は、晩年の帰郷記で「かつての帰郷の際、門前を素通りした豊津中学がその後如何に多く続々として無産運動者、危険人物、社会主義者、共産主義者等を算出したことよ」と述べている。その訳は……。

自らも豊津中出身で約40年間堺の研究をしている小正路淑泰さん(61)(行橋市)はその著「堺利彦と葉山嘉樹

無産政党の社会運動と文化運動」で、「幕末維新时期、長州戦争で敗退した小倉藩が豊津藩に改称し藩再建への活路を求めた。こうした明治維新の勝ち組に対する反骨、怨嗟、嫉妬という独自の精神的風土の中から、もう一つの近代日本を模索した一群の社会運動家、思想家、作家が誕生した。その先駆者が、日本における社会主義の父堺利彦」と分析している。

シニアスタッフ 村田和夫

今回の歴史文化塾は感染予防のため中止致します。



堺利彦 左/1929 [全集掲載像] 59歳 右/1917 [売文社時代] 47歳 (福岡県)みやこ町歴史民俗博物館(所)蔵